

名古屋の古城、町割めぐり

§. 43. 11. 17.

。末森城 : 千種区田城町 城山

末森城は東山丘陵の末端・標高43mの末森山(城山)に
あつて天文16(1547)年に織田信秀が築城し翌年、古渡城
より移り、守山城の弟信光と相対し三河よりの備えとなす。

ところが信秀が病死したため信長の弟信行が居住。ところが
信行・信長と不和を生じ信長に殺され廃城・永禄元年十月
(桃巖寺の位牌には弘治三年十一月とある。)

城は東西一郭に分れ、東の本丸、西の丸(三の丸)と称し
その周囲には内濠と外濠がめぐっていた。西の丸跡には、昭和塾堂
が建てられてあり、東の丸跡はもと白山社の小祠があったが
現在は城山小幡宮があり、その拝殿のあるところが本丸跡
で、その本丸の西には高さ四丈(約13m)の物見やぐらがあったと
云われている。その一隅に、嘉永2年、建てられた「末森城土趾」の
石標がある。濠はほとんど空濠で、方でも本丸の周囲の
内濠をはじめ、それに近い外濠も割合よく旧形を残している
(§40年現在)末森山は決して高くないが、末森城は山城の
様相を呈しており、特に初期の山城のようさが、知らぬ人へ興味深い。

。御器所西城 : 昭和区御器所町字北市場 尾陽神社

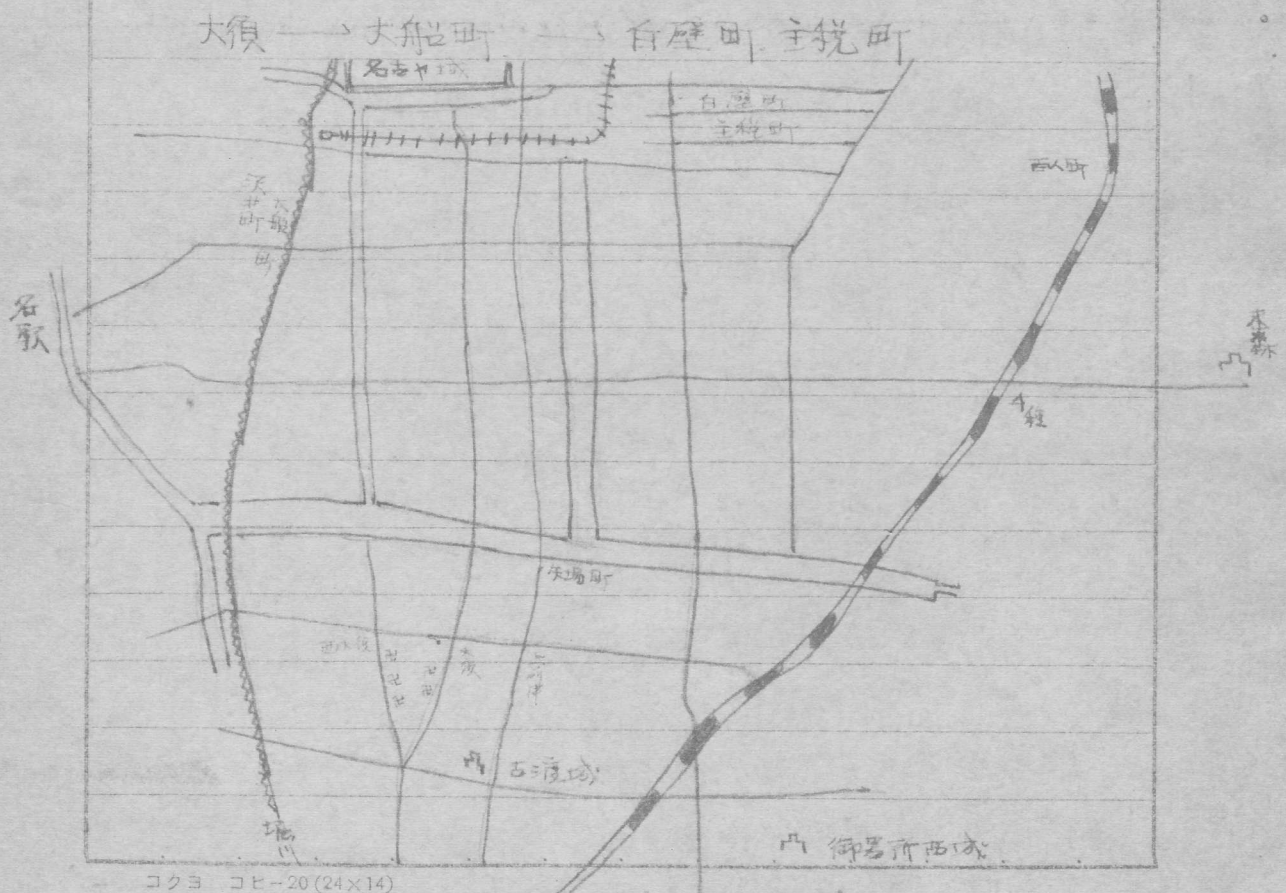
嘉吉の頃、佐久間美作守家勝これを築き、のち子孫数代
これに在る。もと敷林中に、湍土居等旧址を存けりしが、大正の
はじめに尾陽神社を奉祀し、城域を改修したため旧形を
留めざるに至つた。

。古渡城 : 中區下茶屋町東本願寺院 境内

信長に那古野城をゆづらば信秀は古渡村の北

に新に城を築いて、移った。築城の時は不明だが一般に
 天文三(1534)年or天文四年と言われ、規模は東西七十八間
 (約150m)、南北五十六間(約100m)で四方に二重堀がめぐ
 り巡らされたと言われている。後、永禄城に移り天文十七年
 古渡城を破壊し移った。城址はその後はいく回畑にな
 って北原新田と呼ばれていたが元禄五(1692)年に東本願寺の
 名古屋別院が創られた。今境内に「古渡城址」の石碑
 が立っており、かぎに残る土堀と本堂の裏に見える森が
 その名残りをしのばせているにすぎず、長近まであった土堀も
 埋められ、その上に商店が並んでいる。

町割



コクヨ コピー20 (24×14)

(おな下手指地圖 市からな一ね!)